

令和3年度

- 第 1 回 -

藤 岡 市 総 合 教 育 会 議 議 事 録

藤 岡 市

## 令和3年度第1回藤岡市総合教育会議議事録

日 時 令和3年8月25日(水)  
午後1時50分  
場 所 教育庁舎3階第1会議室

### 協議事項

日程第1 いじめ問題の現状と対応について

日程第2 GIGAスクール構想の現状について

日程第3 その他

出席者

市長	新井雅博君	教育長	田中政文君
教育長職務代理者	田中正弘君	教育委員	田村洋子君
教育委員	櫻井正明君	教育委員	内田孝嗣君

欠席者

なし

説明のため出席した者

教育部長	岡本通弘君	教育総務課長	渡邊学君
学校教育課長	宮澤克巳君	生涯学習課長	植野美佐子君
文化財保護課長	軽部達也君	スポーツ課長	吉田隆司君
学校給食センター所長	飯塚広之君	図書館長	堀越輝雄君

事務局職員出席者

教育総務係長	塚本孝	主任	高橋秀仁
--------	-----	----	------

## 会 議 の 概 要

開会 13時50分

教育部長（岡本通弘君） 皆さん、こんにちは。ただ今より令和3年度第1回藤岡市総合教育会議を開催いたします。本日司会を務めさせていただきます、教育部長の岡本です。よろしくお願いいたします。藤岡市総合教育会議は、平成27年4月、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、その設置が定められました。この総合教育会議では、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、藤岡市の教育の課題や、あるべき姿を共有しながら連携して教育行政の推進を図ろうとするものであります。

開催にあたりまして主催者であります、新井市長よりご挨拶を申し上げます。

市長（新井雅博君） まずは、日ごろの皆さんの活動に対して心から感謝とお礼を申し上げます。また本日は、大変ご多忙の中、本会議に御参集賜りまして誠にありがとうございます。今、事務局の方から、法律を含めた会議設置に対する意義ということがご報告されたわけでありますけれども、実は普段から、教育長には二週間に一遍、庁議という形の中ですべての部長を招集いたしまして、それぞれの案件について協議をさせていただいたり、また、その席で田中教育長から教育現場の話等々全てお話をいただいたりする機会があります。また併せて二週間に一遍、現在頻繁に記者会見を各社集まっていたいで行っております。その席にも必ず教育長にもご出席をいただいております。さらには先般の防災訓練から始まって、また、金曜日には防災の図上訓練が、国土交通省や消防、警察、また気象庁などそういった人たちとの連携会議にも当然教育長にも参加いただき、ありとあらゆる行政機関とのそれぞれの会議総会等に出席をさせていただいて、まさしく法律の趣旨の行政と教育行政の連携を図らせていただいているというのが現況であります。また、この趣旨は、いじめ問題を中心とした子どもたちを取り巻く様々な環境についてご協議をいただくということが大きなテーマになっているというふうに承知をいたしておりますが、ご存じのとおり、この一年半、コロナ禍にあって子どもたちの心を含めた、成長過程にある子どもたちの環境が大きく変化をいたしておりますので、ぜひ、教育委員のみなさまには教育現場の事務方から、どのような状況になっているのか、あるいはどうしたらいいのかというご示唆を積極的にいただければというふうに、市長として考えていると

ころであります。本日は、議題には1, 2とありますけれども、ぜひ事務局側からも、あるいは教育長からも、学校教育における新型コロナウイルス感染症対策等々について、また親御さんにとっても、また子どもさんにとっても、デルタ株の猛威によってさらに大きな不安を抱えての新学期が始まるわけでありますので、そういった部分に対するご意見、あるいは現況の取り組み、こんなことも今日の会議の中で話し合っただけであればと思っております。

ぜひ本日も有意義な会議になりますようお願い申し上げてご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくようお願い申し上げます。

教育部長（岡本通弘君） ありがとうございます。続きまして、田中教育長より挨拶をお願いします。

教 育 長（田中政文君） みなさん、こんにちは。ただ今、市長からのご挨拶の中にも触れていただきましたけれども、この総合教育会議、市長が主催してもらえるということで、わざわざ教育庁舎で、市長主催の総合教育会議を開いていただいたということで大変ありがとうございます。

また、こういったコロナ禍の中で市長におかれましては、第一に子どもたちの安全を考えていただいて、色々と新型コロナウイルス感染症対策を打っていただいています。また、ニュースでもあるように、交通事故等の歩道の問題に対しましても先頭になって安全点検に参加していただいて、去年今年といつもよりもかなり大きな予算を組んでいただいて、そういった対応をしていただいているということもございます。また、暑さ対策についても色々とやっただけであるということで、大変感謝しているところであります。

どうしても私たち教育委員会の立場でいうと、教育行政の立場、または学校でいえば教員の立場、そういったところで色々ものを考えたり決めたりしがちですけれども、そういった中で市長がいつも子どもの立場、保護者の立場、市民の立場、そういったところで考えるということをおアドバイスしてくれています。そうしたことを元に少しでも子どもたち、または保護者、市民のためになるような施策を打っていければというふうに思っております。

この総合教育会議の趣旨につきましては、今、市長からありました。色々意見を出していただく中で、子どもたち、または教育行政全般について、色々な方向に向かえることができればというふうに思っておりますが、とりわけ今

こういう状況ですので、コロナ禍の中で子どもたちがどう学校生活を送っていくかということが問題になるかと思えます。藤岡市の場合は、9月を「コロナ対策強化月間」として取り組むようにという市長からの指示もありましたので、9月末まで今まで以上に感染対策をしっかりと、子どもたちに指導していきたい。

今、ニュースで夏休みを延長したらどうかとか、分散登校したらどうかとかそういった報道がなされていますが、実は去年休みにしたときの子どもたち、とりわけ小学生たちの居場所のことを考えると、かなり密な状態でいざるをえないというような状況もあって、そちらの方が、どちらかという子どもたちにとって危険な状況ではないのか、というような協議を市長中心にさせてもらいました。やっぱり本当に子どもたちのことを考えたときに、学校に来てもらったほうがより安心安全なことも多いんじゃないかということで、とくに変更はせずに子どもたちに対応していこうということを決めてございます。

この後、その辺については詳しくありますけれども、そういった中で、残念ながら感染者も増えています。この間も校長が報告に来ましたけれども、元になった生徒は私のせいになってしまったということで悩んでいるとそんな話も聞きました。その子がもし学校に来た時に、不用意なたった一言がものすごく大きな傷を作ってしまうということも考えられますので、その辺の人権への配慮、そういった指導も含めて今後色々考えていかなければいけないなというふうに思っています。

いずれにしても、こういった新型コロナウイルス感染症、人権そういった安心安全、そういったことについて色々ご意見をいただきながら有意義な話し合いができればと思っておりますので、慎重審議をお願い申し上げまして挨拶といたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

教育部長（岡本通弘君） ありがとうございます。それでは協議事項に移らせていただきます。

本日は議題にありますように「いじめ問題の現状と対応について」と「GIGAスクール構想の状況について」の2点について協議していただく予定ですが、市長、教育長の挨拶にもありましたが、群馬県全域において9月12日まで緊急事態措置が実施され、藤岡市においても市有施設の閉鎖等厳しい対応を図り、教育委員会として強い危機感をもって子どもたちの安心安全を第一に対策を講じていきたいと考えています。本日協議していただく、いじめ問題の現

状と対応についても、GIGAスクール構想の現状についても新型コロナウイルス感染症に深く関連する事案と考えていますのでよろしくお願いします。

それでは、議長につきましては、藤岡市総合教育会議運営要綱第2条第1項の規定により、市長をお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

### 日程第1 いじめ問題の現状と対応について

市長（新井雅博君） それでは会議を始めさせていただきたいと存じます。早速、日程第1のいじめ問題の現状と対応について事務局から説明をお願いいたします。

学校教育課長（宮澤克巳君） はじめに、先ほど市長、教育長からお話がありましたとおり、新型コロナウイルス感染症への対応が大きな課題になっておりますので、現状と学校再開にあたっての留意事項等に触れさせていただきます。

今年度4月から本日までの小中学生の陽性者は合計8名でございます。そのうち5名が夏休み中の感染です。また、濃厚接触者が合計52名、そのうち夏休み中の報告が34名です。陽性者、濃厚接触者の数ともに夏休み中が6割以上を占めており、特に8月から急増している状況です。

これまで陽性が確認された児童生徒が出て、学校全体に関わるような大きな事案になることはなかったのですが、現在学校全体に関わる事案が生じていますので、少し説明させていただきます。

中学生の1名が緊急事態宣言の発せられた8月20日に発熱いたしました。そして即日、PCR検査を実施し、8月21日に陽性が確認されました。この時点で家族3名が濃厚接触者との判定を受けています。また、該当の生徒が発症前2日間、該当校で自分の部活動の練習に参加していたことから、同じ部活の生徒12名が濃厚接触者、また関係する生徒68名、指導に当たっていた教員3名の合計71名が接触者の判定となっております。

濃厚接触者につきましてはPCR検査の結果陰性となったとしても2週間程度の自宅待機が必要となるということです。また、接触者につきましては、PCR検査の結果が陰性となれば行動制限は解除されるということです。学校関係者で合計83名が昨日PCR検査を受けており、検査の結果は本日の夜か明日判明すると聞いております。今後も学校と連携を図りながら、子どもたち、そして保護者の不安の気持ちに寄り添いながら、対応に当たっていきたくと思

います。また、現在PCR検査を受けた子どもも先生も発熱等の症状はないという報告を受けております。

このような状況のもと、8月30日より2学期が始まります。学校の対応につきまして資料にまとめさせていただきましたので、ご覧ください。内容につきましては、すでに校長会議で教育長、また学校教育課より校長に周知をいたしました。

まず、1つ目の丸印ですが、8月30日始業式より学校は通常登校とし、9月30日までを「コロナ対策強化月間」と位置づけ、感染予防対策を徹底いたします。

2つ目の丸印をご覧ください。感染者や濃厚接触者、また感染の不安で登校できない児童生徒への対応です。感染した生徒や濃厚接触となった生徒は様々な不安を抱えていると考えられます。また他校においても、今の状況から感染への不安で登校を控えたいという児童生徒が出てくることも考えられます。そういった子どもたちや保護者の気持ちにもしっかりと寄り添いながら、対応していきたいと考えています。集団の中に入るのは怖いという子どもに対しては、別室登校での対応や自宅学習への対応を図っていきたいと考えています。心理的な不安への対応とともに中には疾患をもっている児童生徒もいますので、家庭との連携のもと丁寧に対応をしていきたいと思っております。必要に応じて1人1台のタブレット端末を活用した取り組みを進めていきたいと考えております。

3つ目の丸印ですが、こういった現状ですので児童生徒の陽性者が出れば学校にも濃厚接触者等が多くなり、場合によっては学級閉鎖等も考えられます。その場合、そこに記載しましたとおり子どもたちの気持ちに寄り添うとともに、タブレット端末を活用した健康観察や学習支援等も行っていきたいと考えております。

そして、一番大切な感染症予防でございますが、先ほど市長からもありましたが、「コロナ対策強化月間」として予防対策の徹底を一か月間続けます。その四角囲みに書かせていただいたことは、これまでも学校で取り組んでいることではありますが、昨年の4月に新型コロナウイルス感染症によって学校が休校になった頃に比べますと若干の慣れのようなところも見られますので、再度徹底していきたいと考えています。例えば、手洗いがきちんとできているかどうか、マスクの着用などもノーズワイヤーをしっかりと閉めて正しくできているかどうか、そういったことまで含めて細かく指導していきたいと考えています。



また、学校では校長や養護教諭の講話で全校児童生徒の意識を高めたり、担任が個別に指導したり、または子どもからの呼び掛けとか、そういった取組も積極的に行ってまいります。また（２）の保護者との連携ですが、特にこの夏休み期間の残りの過ごし方、また家庭での感染予防、そして風邪の諸症状が見られる場合などには登校を控えること等のお願いについて、８月２３日に教育長名でメール配信をいたしました。さらに、８月３０日の始業式の日には学校からも再度通知を出すよう指示しております。

大きい２番のいじめ差別を生じさせない人権教育の推進につきましては引き続き取組を進めていきたいと考えています。大きい３番のその他ですが、市長、副市長、教育長、教育部長の小学生の登校見守りについてです。このような体制で、学校を再開していきたいと考えております。

それでは、引き続き議題１「いじめ問題の現状と対応について」をご説明いたします。資料１をご覧ください。本日は新型コロナウイルス感染症の対応を中心とということですが、概略に触れさせていただきます。項目１の令和２年度のいじめの認知件数でございますが、左側のグラフにありますとおり、中学生が１５件、小学生が１０件、合計２５件ございました。令和元年度に比べて合計２３件の減少となっております。減少した理由ですが、昨年度は４月、５月が休校、６月は分散登校となり、子どもたちが学校に来る日数が減少したこと、子ども同士の直接的な関わりがソーシャルディスタンスの確保ということで大分減ってきているということ、また感染症に伴う差別や偏見・いじめ等の防止について指導してきたことにより、子どもたち同士も非常に気を付けながら生活していたなどが考えられます。いじめ認知件数は減ったのですが、コロナ禍にあってマスクをしているために、子どもたちの表情が見えにくいという課題もあります。学校としましては、しっかりと子どもの様子を見取りながら、いじめを見逃さないように早期発見に努めていきたいと考えております。

項目２ですが、各学校におけるいじめ防止対策の概略を載せさせていただきました。お手元の資料１－１をご覧ください。これは平成３０年３月に藤岡市で定めたいじめ防止基本方針です。本市で行っているいじめ防止に関わる取組は、すべてこれにのっとって進めております。各学校もこれを基に小中一貫校としてのいじめ防止基本方針を作成して全教職員で共通理解し、取組を進めております。そして、コロナ禍における人権教育の推進でございますが、先ほど教育長からもありましたが、全校において感染者への誹謗中傷、差別、偏見、

いじめ防止に努めています。誰が感染したのだろうかとか、長く休んでいたから感染したのだろうか、また誰々のせいで自分たちも濃厚接触者になったとか、そういったことは絶対に許さない、あつてはならないという認識で取り組んでいます。また、新型コロナウイルスのワクチン接種の有無によって、差別的な感情が生まれる可能性がありますので、未然防止に向け、きめ細かく指導していきたいと考えております。

資料の1-2をご覧ください。こちらは、昨年市教育委員会が作成し、各学校で指導に使った資料でございます。偏見、差別がなぜ生まれるかということも含め指導いたしました。また資料の1-3をご覧ください。「笑顔、やる気、希望いっぱいの学校づくりをめざして！」とありますが、これは本市で行っている、「いじめ問題解決に向けた子ども会議」で児童生徒が話し合い、令和3年2月に作成したものでございます。なぜ差別やいじめが生まれるのか、新型コロナウイルス感染症の3つの感染の繰り返しを断ち切るために何ができるかについて校区ごとに小中学生が話し合い、一貫校としての行動目標を決めました。5つの一貫校で決めたことを市としてまとめたのが本資料となります。「コロナ対策強化月間」ではこのような資料も活用しながら、教員による指導、また子どもたち自身による啓発活動を取り入れながら、いじめの未然防止に努めていきたいと考えております。また、新型コロナウイルス感染症を通して人権を深く考えるよい機会になるのではと考えています。議題1については以上でございます。

市長（新井雅博君） ありがとうございます。ただいまご報告がありましたことにつきましてご意見がございましたらぜひご発言を賜りたいと存じます。

一 同 なし。

市長（新井雅博君） よろしければ次の議題に移らせていただきたいと思います。

## 日程第2 G I G Aスクール構想の現状について

市長（新井雅博君） それでは、日程第2のG I G Aスクール構想の現状について、事務局から説明をお願いします。

学校教育課長（宮澤克巳君） それでは、G I G Aスクール構想の現状について。説明をさせていただきます。資料の2をご覧ください。現状の進捗状況を取りまとめてございます。時間も限られておりますので、まず学校が今どのようにタブレッ

ト端末を使っているかについての事例を紹介させていただきます。藤岡市では、タブレット端末の整備が他市に比べ速く出来たものですから、この2月から活用が進められました。使い始めて5か月程度の短い期間でよくここまで進んできたと思います。3ページに子どもたちが活用している様子を紹介させていただいています。①はタブレット端末で試行錯誤しながら自力解決を図っている様子です。左の写真は、小学1年、算数の「数」についての学習場面の様子です。これまでおはじきを使って操作してきたことをタブレット端末上のおはじきで、自由に繰り返し操作している様子です。右側の写真は、小学3年、音楽のリズムを作る学習で、児童は、タブレット端末上の音符を動かしながら独自のリズムを作り、実際に手拍子を打って確認していました。どちらも教員が学習の目的に合うように教材を作成したもので、児童も意欲的に学習を進めていました。②はデジタル教科書を使った学習、③は動画機能の活用、④は資料提示での活用です。子どもも教員も端末の操作に慣れ、活用が進んできております。⑤はオンライン学習を活用した取り組みの一つです。別室登校している児童に対して教室の授業を映して学習支援をしているところです。児童も落ち着いて取り組んでいる様子が見られました。

4ページをご覧ください。家庭学習での利用です。1人1台のタブレット端末を家庭に持ち帰った時の活用となります。四角囲いの中に「新型コロナウイルス感染症や災害に伴う臨時休業等への対応」について記載いたしました。まず学校と家庭をオンラインで結び、朝の会や帰りの会、健康観察などをしっかり実施していきたいと考えています。臨時休校時は、特に子どもと先生、家庭と学校のつながりを持つことが何より大切であると考えています。さらに、学習課題の提示、授業の配信、またソフトウェア等を利用した家庭学習の実施を可能なことから進めていきたいと思っております。ただ、授業の配信につきましては、初めから45分授業や50分授業を6時間やることは難しい部分もありますので、まずは20分程度の配信を1日2コマ、3コマくらいから始められればと考えています。資料の写真ですが上2つは、6月に全校で実施したタブレット端末の接続テストの様子です。学校と家庭でタブレット端末がきちんとつながるか・動作するか全員持ち帰らせて確認しました。写真の右側が先生方の様子、左側が家庭の様子となります。子供たちのパソコンに先生の顔が映っている、そして、先生方のパソコンには子どもの顔が映っている様子が分かります。このように活用することで、健康観察等は行えると思っておりますし、例えば、教科書の何

ページをみんなで読んでみましょうというような学習での活用もすぐにできると考えています。下の写真は、夏休み中に1ヶ月間家庭に持ち帰らせた学校の取組で、夏休み中の登校日をオンライン上で行った事例です。大変スムーズにできたと聞いております。こういった取り組みをもとに、今後、臨時休校等の緊急時には、タブレット端末を十分活用していきたいと考えております。学校教育課としましても、基本的なオンライン学習のやり方について資料をこれから作成していこうと考えております。なお、学級閉鎖になった場合、担任の先生も濃厚接触者等となり出勤できなくなる可能性があります。そういった場合にどのように学校全体でフォローしていけばよいかなどの課題もありますので、これからしっかりと対策を考えていきます。

以上、簡単ですが、GIGAスクール構想の現状についての説明を終わりにいたします。

市長（新井雅博君） ありがとうございます。それでは、ご意見ございましたらお願い申し上げます。

市長（新井雅博君） 田中委員。

委員（田中正弘君） 全国的に児童生徒に一人一台のタブレット端末ということが言われる前に藤岡市においては新井市長の方から出していただいて、本当に早い時期から取り組んでいただくことができたと思っています。議題に上がっていますGIGAスクール、この短期間でここまでのものができ上がっているということは、やはりタイミングで始められたことが、これに活かされているのではないかと、結果的に表れているのではないかと感じております。そういった意味では、一市民として、また保護者の代表として深く御礼を申し上げたいと思います。

また、田中教育長をはじめ、これに携わった関係者の皆様、今までやっていなかったことが突如として行われたということでもありますから、大変ご苦労だったというふうに感じております。そういった人たちに対しても感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。今回のGIGAスクールに関して、確かに最初は新型コロナウイルス感染症に対しての取り組みから始まったことではありますけれども、今日ここまでこれだけのことがされているというのは感染症対策というよりも、むしろGIGAスクールというものを活用しながら、より良い藤岡市の学校教育を求めていくということにつながっているような気がするので、まだまだご苦労は絶えないかと思いますが、しっかりと

と活用しながら発展できるように推し進めていただければいいかなというふうに思っています。感謝いたしております。ありがとうございます。

市長（新井雅博君） 大変ありがとうございました。

市長（新井雅博君） 田中教育長。

教育長（田中政文君） ありがとうございます。先ほど課長からありましたけれども、学校訪問を1学期にしたのですが、7月の中旬に行ったのが西中学校だったのですけれども、その頃はほぼ全部の学級でタブレット端末を使っていました。今までだったらこうだったなというのを思うとかなり効果的な活用がされていて、新聞報道などだと、教員の研修や本当に使えるのかといった心配が大分報道されていますが、藤岡の場合は先ほどあったように早く使い始めることができましたので、極端に言えば他の自治体が箱から出した時期に既に使っていたという状況がありまして、その7月のときには、わたくしどもの予想以上に子どもたちが嬉々として機械を使っているのですね。そういった様子を見ると、今後ますますそういった活用が効果的かなと思います。併せて今日も研修を行いました。デジタル教科書というのも市の予算で今年度は英語を入れてもらいました。この活用もだいぶ進んでいまして、こういったことがかなり効果的に子どもたちの学力向上に影響するのかなと思っています。ただ、併せて黒板に書くこと、ノートに書くこと、こういったこともすごく大事だと思っております。そのあたりのバランスを考えながら、紙の良さというのもありますので、そのあたりを合わせてやっていければと思います。今、田中委員にご指摘いただいたことも参考にして2学期に進んでいきたいと思っています。ありがとうございます。

市長（新井雅博君） ありがとうございます。他にございますか。

市長（新井雅博君） 田村委員。

委員（田村洋子君） 田中委員と同じように、いじめ問題の解決にも一人一台タブレットの活用というのとソーシャルディスタンスを保つことがリンクしているのかなという気がします。今までの、集団の中で声を上げられなかった子、どうしても全体の意見の中に吸い込まれてしまう小さな声が拾えるのかなという気がします。このタブレット端末を活用して、声を上げていても小さくて届かないという子どもたちの声を拾っていただいて、みんなで朗読してしまうと一人黙っていても誰も気が付かない、それを一人一人に耳を傾けるということがこれはできる気がします。色々な人がいて色々な考え方があってよいとい

うことを、子どもたちの中で学べるいい機会かなと思っておりますので、先生方、ご指導本当に大変だと思いますが、そういう気付きが子どもたちに与えられるような活用をよろしくお願ひしたいと思ひます。

それと、修学旅行を夏休み前にしていただいて本当にありがとうございます。今年高校1年生になった子のお母さんから、卒業アルバムに何も写真がない、イベントが一つもない、友達と密になって何か一緒に作り上げたという思い出が何もなくてとても残念だという声を聞きました。子どもたちの中で成長の一過程ではなくて一生の思い出として、自分は中学の時にこうだったんだというよふな記憶が残るよふ、そういうものが早く日常的にできるようになればと思ひております。早速修学旅行を実施していただいて本当にありがとうございました。

市長（新井雅博君） ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

市長（新井雅博君） 櫻井委員。

委員（櫻井正明君） 私はこのタブレット端末を使った授業というか勉強、それからGIGAスクールということで、当初なかなか子どもが機械を使いこなすのは自分のレベルから見ると難しいのではないかと考えていました。孫を見ていると、私よりもはるかに上手に使えているので、ああよかったのかなと思ひます。子どもたちが、機械の操作が上手であるということ、私が一番安心したのはそこでした。いろいろありがとうございました。

市長（新井雅博君） ありがとうございます。

市長（新井雅博君） 内田委員。

委員（内田孝嗣君） 他の委員さんがすべて言ってくさいました。

市長（新井雅博君） ありがとうございます。

### 日程第3 その他について

市長（新井雅博君） 日程第3その他についてですが、何かございませうか。

市長（新井雅博君） 田中委員。

委員（田中正弘君） その他というか、今の議案の延長線上のよふなものなのですが、参考にしていただければと思ひます。学校の授業がリモートでというお話が先ほどから出ていますが、リモートするときに必要なとなってくるのがやはり家庭の問題というのがあると思ひます。一番いい形は、子どもが家でリモー

ト教育を受けながらも、親がどこかで子どもが見られるような状態にできるように、スマートフォンとコンピューターを連携するなど、そのようなことが実現できれば、リモート教育も、もっともっとスムーズに活用できていくんじゃないかなと思います。一意見として聞いていただければと思います。ありがとうございました。

市長（新井雅博君） ぜひ事務局で研究してください。

学校教育課長（宮澤克巳君） はい、ご意見ありがとうございます。今後研究してまいります。

市長（新井雅博君） その他でございますか。

市長（新井雅博君） 内田委員。

委員（内田孝嗣君） いじめ問題のことなのですが、おそらく各校で表面化していない先生も分からないであろう事案が存在するのではないかと想像しています。というのは、実は私が教育委員をしているのを知らないで、「こういうことがあったんだ、困っちゃったんだよね」という話を聞いているのですね。警察沙汰になんて話その人の口から出ると、内心私もドキッとします。それなので参考にさせていただければと思うのですが、内容を見させていただいてリスク管理も十分とっているということは分かるのですが、起こったものに対してリスク管理するのはやはり保身が強いのかなという気がします。予防に対しての方にもうちょっと力を入れていただきたいです。とはいっても先生の知らないところで起こるものだからしょうがないという理屈が成り立ってしまうのですが、そこで私が思い当たったのが、私も数年携わらせていただいたのですが、地域コーディネーターやPTAの方に協力させていただいて、休み時間などに巡回という言葉が物騒ですが、児童生徒と一緒に過ごしていただけないという希望を持っています。ただ、地域コーディネーター、各校で名前は違いますが、現状を申し上げますと、見切り発車をしてしまった部分が随分ありまして、結構必死でこのままいくと燃え尽きてしまうのではないかというくらい一生懸命やっています。それなので、持続的にやっていけるような仕組みを作りつつ、いじめ問題の解決のお手伝いをさせていただけたら有難いなと思います。

市長（新井雅博君） ありがとうございます。

学校教育課長。

学校教育課長（宮澤克巳君） いじめの未然防止・早期発見につきましては、学校が一番力

を入れているところであります。ただ、どうしても教員の目から見えない部分がありますので、ぜひはじめの情報がありませんでしたら、些細なことでも構いませんので、保護者の方からも学校等へ連絡を入れていただければと思います。また、子どもの見守りに、地域コーディネーターやPTAの協力ということでお話をいただきましたが、コミュニティスクールとして取り組みを進めてきて、学校の授業にボランティアさんが入ってくださるようになり、支援をしてもらっている子どもたちの表情もとても楽しいそうで、安心している様子がうかがえます。また、こういったことが、子どもの見守りにつながっていると感じていますので、今後も地域の方々の力を借りながら進めていきたいと思っております。コーディネーターの負担をどのように減らし、持続可能な仕組みを作るかについては、各一貫校の学校運営協議会で熟議しながら進められればと思っております。

市長（新井雅博君） 教育長。

教育長（田中政文君） 今、課長からありました通りですが、私が辞令交付のときに最後に教員に話していることは、子どもたちは多くの大人から愛されているということが分かると、子どもたちの笑顔とやる気と希望がいっぱいになるという話をいつもさせていただいています。したがって、地域コーディネーターの話が出ましたけれども、学校にいる教員、これは評価者になってしまうのですが、コミュニティスクールによってそうではない方々が今学校に来てくださるようになりまして、そういった多くの方々が子どもたちをほめたり、笑顔で接していただいたりする、これが最大の予防だと思っております。細かい相談はもちろんなのですが、そういった機会をできるだけ増やして予防に努めていきたいというふうに思っています。貴重なご意見ありがとうございました。

市長（新井雅博君） よろしいでしょうか。それではすべての日程、案件につきましては協議が終了いたしましたので、これで進行役は降ろさせていただきたいと思っております。それぞれ賜りましたご意見につきましては、引き続き教育委員の皆様方のご指導を仰いだり、教育委員会事務局と行政がしっかり連携したりしながら本市の教育行政を真剣に生かしていきたいと思っておりますので、本日は誠に貴重なご意見ありがとうございました。

教育部長（岡本通弘君） ありがとうございました。以上で令和3年度第1回藤岡市総合教育会議を終了させていただきます。大変お疲れさまでした。次回、総合教育会議は、会議を招集すべき議題が発生した場合に随時開催いたします。よろ



しくお願いいたします。ありがとうございました。

閉会 14時40分